

5 学年（体育） I C T 機器を活用した各教科等の授業実践報告

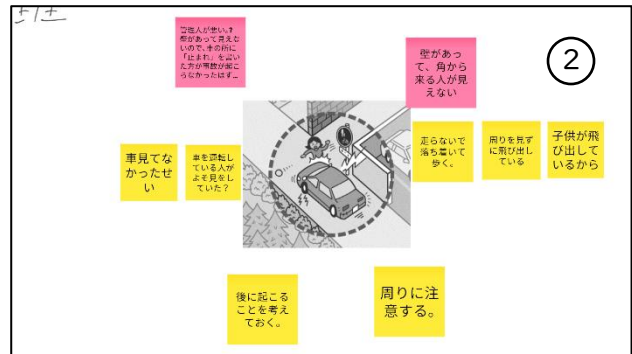
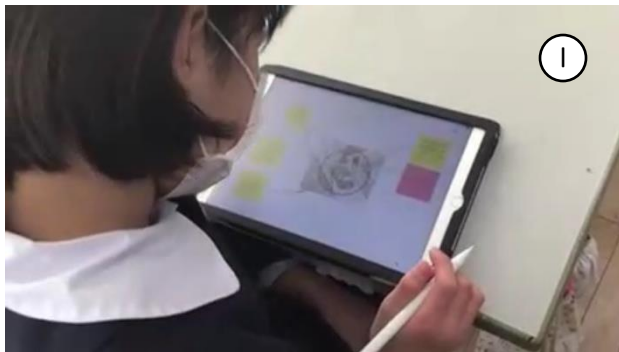
1. 授業実践

単元名	けがの防止
ねらい	事故の場面絵を基にけがの原因を人の行動や環境に分けることを通して、人の行動や環境が関わることで発生していることを理解する。

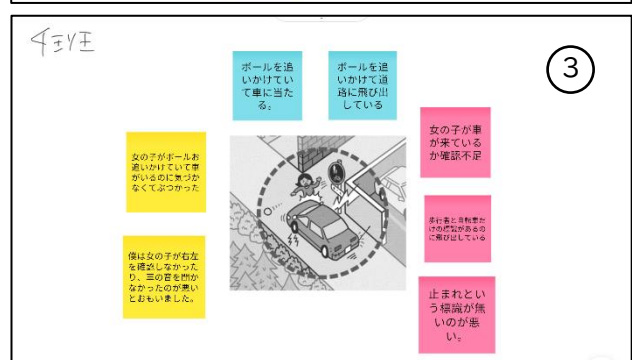
2. I C T 機器の具体

ICT 機器	iPad, Jamboard
機能	同時作成・編集
活用の目的	人の行動と周りの環境の2つの視点を基に、学校内の事故と交通事故の原因をグループで分類しながら、自分と友達の考えとを関連付けたりすること

3. 学習活動中の子どもの様子



①子どもは学校内で起こった事故の場面絵を見て、事故の原因には、人の行動と周りの環境の2つの要因がありそうだということに気付いた。そして、3～4人のグループで Jamboard 上に共有された交通事故の場面絵を基に、場面が変わっても人の行動と周りの環境の2つの要因で原因を分類できるかを考えた。人の行動による原因は黄色、周りの環境による原因はピンクの付箋を用いて分類した。



- ②子どもたちは自分の考えた付箋と友達の付箋とを比較し、「子どもが飛び出している」という共通点を見だし、似ている原因が書かれた付箋同士を近付けていた。
- ③グループによっては、付箋を分類しているうちに「ボールや車という環境」と「飛び出した人や運転している人」を関連付けて、人と環境に明確に分けづらいということから青の付箋を用いて記述している様子が見られた。子どもの振り返りには、「場面が変わっても、けがの原因は「人物」と「環境」の2つに分けられることがわかった」や「周りの環境を見て注意したり、危険な場所を知らせたりして、危険を予測することが大切である」などの振り返りが見られた。また、「けがを予防するには、どのような対策が必要になるのか」という次時につながる意識も生まれた。

4. 成果と課題

成果 自分の考えの修正が容易である点や分類する際に付箋の色を変えたり、大小の変更をしたりする点では、付箋紙で行うよりも有効であった。Jamboard は自分の考えと友達の考えを即時に共有できる。そのため、比較しやすく、共通点や相違点に気付き、話し合いを深めることができる。

課題 付箋に個人の考えを記入することとグループで分類することを区切らず、同時に行ったことによって、記入と分類のタイミングや付箋の置き場に悩んでしまう姿が見られた。今後は、子どもたちが付箋を置く場所を明確にできるように、子どもに配付するシートのレイアウトをベン図にしたり、個人で記入した付箋を置くスペースや別シートをつくったりするなど工夫していきたい。